

目指す学校像「教師が、児童が、気力に溢れ、真剣な眼差しと笑顔に満ちた学校」



みずたに

1学期末号

令和7年7月18日

『あゆみ』を手にして

校長 大竹 宏治

保護者、地域の方々のご支援ご協力のおかげで、無事、1学期の終業式を迎えることができました。日頃から水谷小学校の教育活動へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本日、各担任より通知表『あゆみ』を手渡しいたしました。昨年度に改訂しました『あゆみ』ではありますが、再度、「学習・生活・行動面の状況が分かりやすく伝わるような」「子ども達が次学期に意欲がもてるような」通知表とはどういうものなのかを保護者の皆様からいただいた学校評価などを参考にして会議を重ね、今回のような内容に変更させていただきました。

教科によっては、単元別の評価がよいというご意見もございますが、学習指導要領の改訂に伴い、各教科の特性に応じて設定した観点別評価(3つの観点)を基本として作成しております。詳細につきましては、子ども達が日々持ち帰っております評価テストや小テスト等でご確認いただきますようお願いいたします。

さて、保護者の皆さんは『あゆみ』を受け取った後、どの部分からご覧になりますか？ また、どの部分を重要視しますか？ 恐らく、人それぞれではないでしょうか。私が皆さんにお願いしたいことは、学習面、生活面(行動の記録)、学校から家庭へ(所見)、出欠の記録のどの部分でも結構です。お子様ががんばったところ(いいところ)をまずは褒めてあげてください。そして次に……。大人である我々であってもマイナスの話からされると、その後の称賛の言葉は意外と心に残らないものです。

また、同じことを伝えるにしてもどのような言い方でいうのか、どのような表情でいうのかによって感じ方は変わってくるものです。「私が何度いっても……」と頭を抱えている方は、お子様の性格に応じていろいろと変えてみると……。